

① 高尿酸血症ってなに？

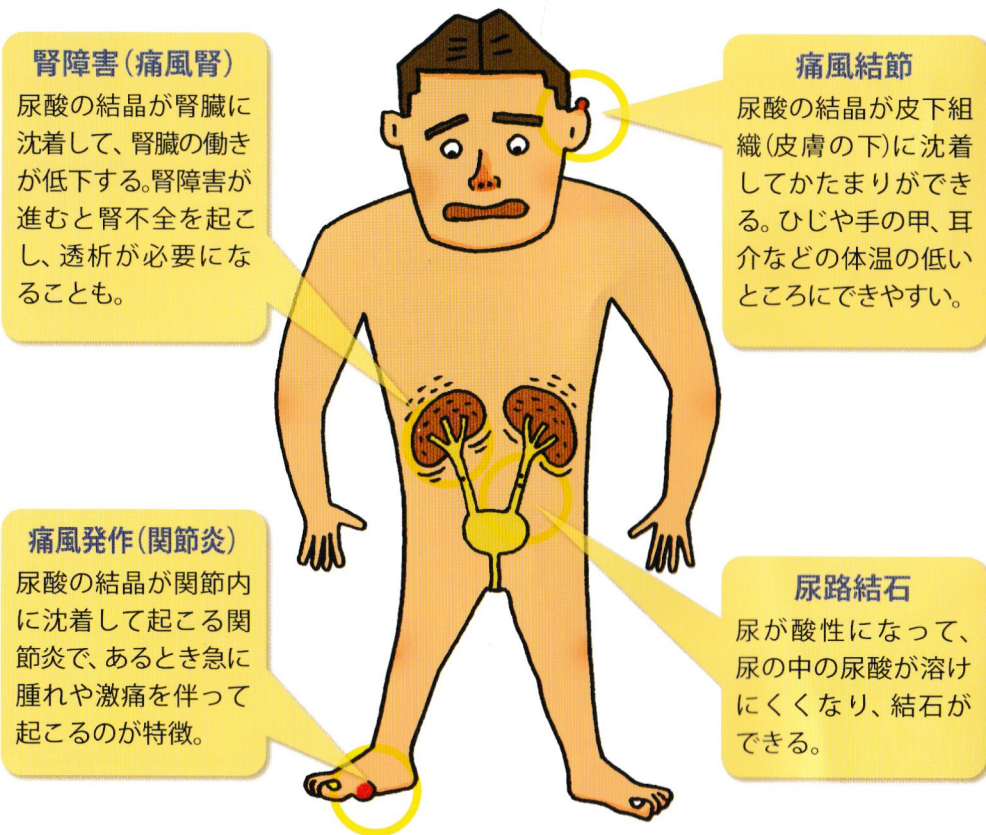
尿酸値が高いと なぜいけない？

血液中の尿酸の濃度のことを尿酸値といいます。いまは何の自覚症状もなくとも、高尿酸血症は様々な合

併症の黄信号です。尿酸値が7.0mg/dLを超えたら「高尿酸血症」と呼びます。

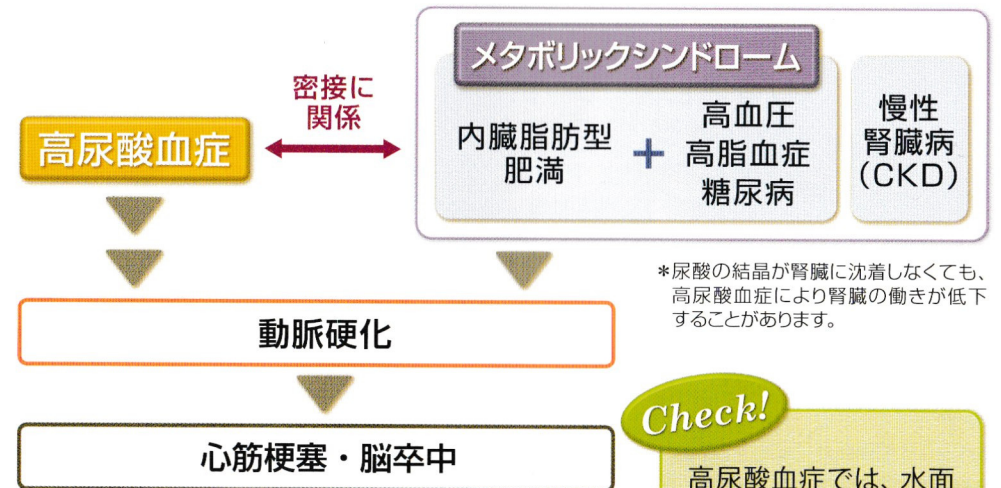
① 高尿酸血症は痛風発作や腎障害の予備軍

高尿酸血症の状態が長く続くと、尿酸の結晶が体のあちこちに沈着し始め、激痛で知られる「痛風発作」をはじめとする様々な症状を引き起こします。



② 高尿酸血症は生活習慣病や慢性腎臓病*を合併しやすい

最近では、高尿酸血症は高血圧や高脂血症、糖尿病などの生活習慣病や慢性腎臓病(CKD)を合併しやすいことがわかってきました。生活習慣病のベースにはメタボリックシンドロームといわれる内臓脂肪型肥満の代謝異常がありますが、高尿酸血症も全身の代謝異常のひとつの現れともいえます。高尿酸血症はこれらの疾患と密接に関係し、動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳卒中などを起こすリスクを高めているといわれています。



*尿酸の結晶が腎臓に沈着しなくても、高尿酸血症により腎臓の働きが低下することがあります。

Check!
高尿酸血症では、水面下に隠れてみえない重大な合併症に注意することが大切です。

